



学校だより

子どもの「やる気」を育てます

1月号 令和8年1月8日
 西東京市立保谷第一小学校
 校長 原 之雄
 〒202-0004 西東京市下保谷1-4-4
 TEL042-422-4513 FAX042-424-7117
<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-houyal/>
 e-mail e-houyal@nishitokyo.ed.jp

保谷第一小ホーム
 ページ
 QRコード



子どもの世界を大切に

校長 原 之雄

令和8年の新春を迎え、新たな気持ちで3学期がスタートしました。去年は、保谷第一小学校の教育活動に並々ならぬご支援を賜り、誠にありがとうございました。本年もご支援、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、12月に開催された「保一作品展」には、たくさんの保護者の皆様、地域の皆様にご来校いただきました。6年生の平面作品に感心し、何度も見学に訪れる方、4年生の立体作品をバックに記念写真を撮る方等、たくさんの方々に子どもたちの作品の良さ、子どもたちの日々の学習の成果をご覧いただけたことをとても嬉しく、そして有難く思いました。改めて感謝申し上げます。

保一作品展が終わった後も、校内を回っていると、真新しいノートに一心不乱にお絵かきをしている1、2年生の姿を目にしました。どの子も伸び伸びと、実に楽しそうに絵を描き、そして思い思いの色を重ねています。この光景を目にしたとき、ふと自分の幼かった頃の記憶がよみがえりました。

私は、子どもの頃、絵を描くのがとにかく苦手で、そして嫌いでした。下手であると自分でも自覚していて、図工の時間に絵を描くのが苦痛でした。今でもその意識は残っています。

私の父親は絵心のある人で、ことあるごとに私に絵を描いてくれました。お金を出して買うのがもったいなかったのか、時には自分で紙芝居を作って読んで聞かせたりもしました。小学校に上がった頃でしょうか、休日になるとスケッチブックを持って近くの公園や土手に写生に行くようになりました。時には電車に乗って遠くまで行くこともあったと記憶しています。

ある時、線路が続く、のどかな景色の場所で絵を描くことになりました。電車が好きだった私は、線路と電車を描こうと何度も何度もスケッチブックに鉛筆を走らせるのですが、どうしてもうまく描けません。何度描いても梯子のようになってしまいます。その上に電車を描くと、まるで木の枝にマッチ箱が張り付いているようです。父は私の絵を見るとため息をついて、「お前は本当に絵が下手だなー」とつぶやきました。私はそれ以来スケッチに行かなくなりました。絵を描くことが苦痛になったのです。

父親は多分、多少なりとも遠近法を使って写実的な絵を描くことを教えたかったのでしょう。遠くのは小高く、近くのは大きく。そうすればもっと絵を描くのが楽しくなる、そして絵がうまくなるだろうと。しかし、それは大人の論理、価値観です。子どもは小さな大人ではありません。大人とはちがう世界を見て、そして生きています。絵で言えば、物をじっくりと見て、それをリアルに（写實的に）描いているのではなく、その物に対してもっている自分のイメージを表現しているとも言えるのです。そしてそれは未熟なことなのではなく、リアルな絵を描くようになる前の大切な段階と考えることもできそうです。

子どもの中に無理に大人を見出そうとするのではなく、その年代、その年代の子どもの世界を大切にすること、これを学校では発達段階と呼び大切にしています。これが子どものその後の成長に重要な意味をもっているからです。保谷第一小学校では、これからも、日々細やかに子どもを見つめつつ、大らかな目をもち、じっくりと子ども主体の教育活動に取り組んでいきます。遊びも勉強も大好きな、そして友達、人間が大好きな子どもに育てあってほしい、と改めて思った新春となりました。